

研究・調査報告書

報告書番号	担当
471	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Chronic kidney disease and drinking status in relation to risks of stroke and its subtypes: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). CKD と飲酒歴における脳卒中リスクの関係 : CIRCS 研究	
執筆者	
Shimizu Y, Maeda K, Imano H, Ohira T, Kitamura A, Kiyama M, Okada T, Ishikawa Y, Shimamoto T, Yamagishi K, Tanigawa T, Iso H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Stroke. 2011 Sep;42(9):2531-7.	
キーワード	
脳卒中リスク、フォローアップ研究、GFR(糸球体濾過率)、CKD(慢性腎疾患)	
要 旨	
目的： 複数の疫学研究において、CKD と想定 GFR、脳卒中リスクの間に関係性を発見した。しかしながら、CKD と脳卒中の関係性についての性特定のなエビデンスはいまだ限られている。そこで CKD と脳卒中リスクの関係性を確認するために脳卒中の発生についての系統的な調査を行った。	
方法： 4 地域に住む 40- 69 歳の日本人男女 12,222 名に対してコホート研究を実施した。	
結果： 17 年のフォローアップの間に脳卒中は 566 件(虚血性脳卒中 327 件、出血性脳卒中 186 件)発生した。男女両群において、GFR と脳卒中の年齢差・地域差を調整したリスクとの間には逆相関の関係にあった。CKD (GFR \geq 60 mL/min per 1.73m ²)でない対照群と比較して、CKD 罹患群(GFR <60 mL/min per 1.73m ²)の調整後の脳卒中リスクは男性で 1.63 (1.22-2.17)、女性で 1.51 (1.13-2.02)であった。CKD に関連した脳卒中の過大なリスクを男性における出血性脳卒中と女性における虚血性脳卒中において最初に特定した。伝統的な循環器リスク因子への調整後においても統計学的に有意であった。飲酒歴に応じて層別化した場合には CKD を罹患した状態での出血性脳卒中の過大なリスクは飲酒者に限定され、調整後のリスクは男性で 4.18 (2.31-7.57)、女性で 7.00 (1.92-25.56)であった。	
結論： CKD を罹患すると、男性において出血性脳卒中、女性において虚血性脳卒中のリスクを増大することが分かった。この性別差は男女間の飲酒割合の差で部分的に説明できるのではないかと考えられる。	